

旭川医大病院ニュース

旭川医科大学 附属病院の近況

病院長 牧野 勲

ここ一年間に本院で目につく変化を幾つか挙げて見ますと、新年早々から国立学校施設整備事業の一環として病院外壁の改修工事が行われました。外壁の色については職員の皆様や専門家のご意見を参考に決定され、お陰様で病院の外観は明るい上品な色での仕上がりととなりました。同時に病院正面屋上に「旭川医科大学病院」の八文字看板が掲がり、工事は三月一杯で終了しました。

その一方、一月からオーダリングシステムが更新され、これによる情報量の大量化と情報処理のスピードアップが期待されましたが、システムが使用開始時から暫くの間は円滑に作動せず、病院スタッフ及び患者さんに大変ご迷惑をお掛

けしました。しかし、医療情報室ならびに事務方の並々ならぬご努力により、大部分は解決されましたが、一部は改善作業中であり、また、医療情報室は医療情報部に格上げされ、機能強化されることになりました。検査部には本年度、高額の総合臨床検査システムが導入されますので、これを機会に中央採血室の開設準備が進められています。本システムが本格的に稼働しますと、分析に要する時間が短縮され、来院時採血した検査結果はその日の診察間に合います。

本院では患者環境の改善が活発に行われました。列挙してみますと病室のブラインドや待合用椅子の更新、アレンジフラワー、コインロッカー、魚八景などの設

題字は吉岡元病院長
〔編集〕
旭川医科大学医学部附属
病院広報誌編集委員会
委員長 松野教授
(整形外科)

置、院内案内表示板やゴミ箱の更新などであり、これらの全ては「さわやか行政サービス推進委員会」の気配りアイデアによるものであります。上記の改善項目の外には触れにくい地味な改善項目が多数あり、関係各位の皆様にお礼申し上げます。

本院は特定機能病院ですから、地域における中核的医療機関として原則的に患者主体の医療を提供する責務があります。それに伴い解決しなければならぬ問題も多種多様です。つまり、先端医療面の整備、患者サービス面の向上、医の倫理面の徹底、病院経営面の改善などです。さらに、本院の特徴のある将来構想の一つとして地域医療情報センター構想の実現にむけてポイントを議論しています。これらの諸問題を解決し、良質な医療を提供するべく職員皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

「看護の日」

平成三年に制定された看護の日・看護週間も、今年で八回目になった。制定当時より日本の高齢化は一層進行し、看護や介護が必要なこととして、深く国民の意識に根付いていっていると思われる。

今年の看護週間は、ナイチンゲール生誕の五月十二日の看護の日を含む五月十日から十六日であった。

看護週間の期間中、病院玄関ロビーに「看護の心をみんなの心に」の垂れ幕を掛け、病院各所に記念ポスターも掲示した。また、看護職員の胸にも記念ワッペンをつけた。何となく胸元が明るく華やいで、看護婦の動作が一段とキビキビし

て見えた。

メイン行事の「ふれあい看護体験」は五月十二日に行われた。応募者多数のため一部の人には断念しても

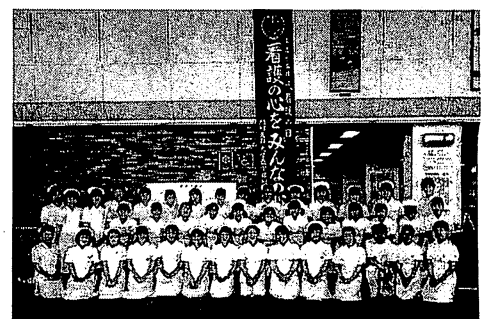


らったが、それでも社会人二名、高校生三十四名が参加した。

三人ずつに分かれ、十二の病棟に体験におもむいた。ナースステーションによっては、三施設からの看護学生の実習が入っていたため、さぞかし大忙がしだろうと思われた。それでも看護婦達は、いろいろ体験して患者さんと触れ合ってもらおうと工夫していた様子だった。中には実習中の看護学生と係わりを持つ場面もあり、高校生にとっては意義深い体験になったものと思われる。

体験中の様子を初めてビデオ撮影し、昼食時に放映した。自分の行かなかった病棟や、体験しなかった看護行為に興味津々で、もっといろいろなることを見たり行なったりしたかったとの感想が寄せられた。

午後から記念撮影・院内見学してから懇談会を持った。「健康であれば、入浴や着替えも食事をするのも、何でもないごく普通のことなのに、病気になること出来なくなってしまうこともあるのだ。日常生活の大切さと、それを整えることの重大さがわかった。自分



が健康なのが、とても幸せなことなのだ」と実感した。等、各々に自分の体験したことや感じたことを、自分の言葉で表現していた。

高校生は全員が看護職かその他の医療職の志望で、この体験が良い動機づけになったら幸いと考える。一部には、院内見学時に看護学科を見たいとの希望もあった。

また、社会人の方は、家庭看護法を習得したいとの意図であった。高齢化が進む中で、確実に必要性が増していると言える。これ等を考えると、有意義な催しであったと思う。

記念行事を実施するにあたり、職員の皆様方の御協力に心から感謝申し上げます。

(看護部総務委員 阿部幸子)

学生時代の反省と これからの決意

小児科 杉本昌也



国家試験も無事終わり卒業旅行で旅行先に詰め込んだ知識の多くをおき忘れてきました。このような新米医師ですが、この短い期間で学んだ医師としての大きな責任、一社会人としての責任と自覚は計り知れないものがあります。学生時代にはなかった緊張感・充実感、そして心地よい疲労感どれも初めて経験するものばかりです。

その中でも患者さんとのコミュニケーションの難しさを痛感しています。実を言うと僕は、学生時代、患者さんと一対一で話をするのが苦手でした。なぜなら、二週ローテートで実習している学生に患者さんは何でもつつみ隠さず打ち明けてくれるだろうか、たとえ打ち明けたとしても、二週間でないようになってしまい、もう何度も学生の相手をさせられていると患者さんがう

んざりしているのではないかと。などと自分で思い込んでしまふからです。そうして次第に患者さんから離れ、カルテとデータを書き写してレポートし発表する、この繰り返しでした。周りの仲間も結構同じ悩みを持っていました。

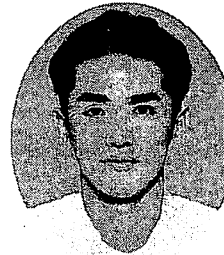
実際、医療の現場の片隅に立って先輩の先生や看護婦さんが患者さんとコミュニケーションをとりながら診察を見てると、実際は自分が思っていた以上にもしっかりと患者さんと接している、患者さんがいない場所でも常に患者さんの事を考えているという印象を受けました。

学生時代に思い悩んだ不安悩みは、「自分をあまやかした姿勢であって間違いであった。」と気づきました。たかだか二週間のロー

テーションでも、もっとも患者さんと接するべきであったと思います。今、学生時代を振り返って反省しています。

研修医となつて

第一外科 永峯 晃



六年間の学業生活(のべ七年間)を終えて高校生の頃に志した職業によりやく

私は現在、旭川医科大学第一外科に入局し、笹嶋教授の下で研修医として働いています。私が医師を志したのは高校生の頃に鉄欠乏性貧血のために従来通りの生活を送ることができなくな

今、念願の仕事について一カ月が過ぎようとしています。あつという間の一カ月でした。仕事初めの日は、まさに地に足が着いておらず、医師という肩書きは名ばかりで病棟実習でまわっている学生達と一緒にな

て医療の現場を見学している感じでした。病気を患っている患者さんの為に自分が何をすれば良いのか、何をしなければならぬのか、チーム医療としてできることは何か。笹嶋教授を始めとする心有るオオベンの先生方の暖かい指導のもと日々勉強の毎日を送っています。

たことがきっかけでした。私は幼い頃から体を動かしているのが好きで病院とは無縁な生活を送っていました。ところが、貧血の為に立ち上るとめまいがしてトイレから出られなくなったり自転車に乗れなくなったりと、普段は何気なくしていたことが出来なくな

たことがありました。元気が取柄であった私には大変ショックなことで、将来は健康を害している人の為に何かできる仕事につきたいと思うきっかけとなりました。

元々はオオベンの先生から仕事を始めて間もない頃に何をすればよいかわからな

いときに、「病棟の患者さん一人一人を知る上でも大切なことだからしてみれば。」の一言から始めたことですが、この朝の病棟回りは大変為になっています。先日、食事の量が減ってきていて、私が毎回「薬だと思って食べてみたら、」と言っていた患者さんにこのようなことを言われました。「先生の言っていることは私もバカじゃないからわかるんだよ。でも、入っていないだけだしね。おなかかすかないんだよ。すかないけど薬だと思って食べようとするんだけど入らなくてね。」私は食べる食べると言っている患者さんを苦しませていたのかも知れません。反省しきりです。「病気を患っているのは患者さんなのだからその原因が何か患者さんに接して自分の持っている知識を活用して見つけてあげなければね。医師は患者さんにも育てあげられるものなんだよ。」以前そのような話を聞いて頭では理解していたことなのですが実際にどのくらい実行できているのかを改めて考えるきっかけとなりました。まだまだ勉強不足の私ですが、頑張っていきたいと思いま

Fresh Voice

病棟には、血液疾患や、神経疾患で長く入院している子供達がいます。低出生体重児や、心臓の病気の子など多種多様な疾患を持つ子供がいます。どの子も皆愛嬌があつて、素直でかわい子ばかりです。

現在はまだ手探り状態ですが、先輩の見よう見まねで少しずつ仕事を身につけていきたいと考えている所存です。

最後になりましたが、この場を借りて医師、看護婦、検査技師の方、そして病院に携わっている方々へご指導のほどよろしくお願ひします。

病棟回診前に病棟をまわって昨晩や今朝の患者さんの状態はどうか、患者さんに聞いてまわることになっています。「おはようございます。お変わりないですか。昨晩はよく眠れましたか、食事はどうですか。」毎回、尋ねることは決まっていますが、それでも患者さんの状態によって返答は様々で「いいよ。」とこちらまで嬉しくなるような笑顔で答えてくれる患者さん多いけれど「変わらないよ。」との一言の患者さん多いです。

元々はオオベンの先生から仕事を始めて間もない頃に何をすればよいかわからな

いときに、「病棟の患者さん一人一人を知る上でも大切なことだからしてみれば。」の一言から始めたことですが、この朝の病棟回りは大変為になっています。先日、食事の量が減ってきていて、私が毎回「薬だと思って食べてみたら、」と言っていた患者さんにこのようなことを言われました。「先生の言っていることは私もバカじゃないからわかるんだよ。でも、入っていないだけだしね。おなかかすかないんだよ。すかないけど薬だと思って食べようとするんだけど入らなくてね。」私は食べる食べると言っている患者さんを苦しませていたのかも知れません。反省しきりです。「病気を患っているのは患者さんなのだからその原因が何か患者さんに接して自分の持っている知識を活用して見つけてあげなければね。医師は患者さんにも育てあげられるものなんだよ。」以前そのような話を聞いて頭では理解していたことなのですが実際にどのくらい実行できているのかを改めて考えるきっかけとなりました。まだまだ勉強不足の私ですが、頑張っていきたいと思いま

看護婦になつて

7階西NS

大場 雅 恵



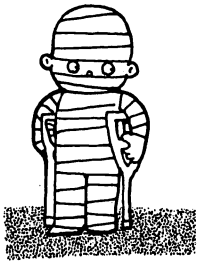
この春、無事国家試験に合格し幼い頃からの夢だった「看護婦」という職業につくことが出来ました。この二ヶ月の間は、時が経つのがとても早かったように思います。

看護婦になる過程の中で三年間は、実習を通して喜び、辛さを体験し看護の難しさ、奥深さ等多くを学びました。一人の患者さんを受け持ち、一定期間の中でその人に必要である看護はなにかとゆっくりと考えられた学生の頃とは違い、今は業務に慣れることで精一杯です。私はまだ、与えられた業務をこなすことばかりに目が行ってしまっています。学生時代に学んだ知識や技術も働いてみると忘れていくことも多く、思うように看護を実践へとつなぐことができないのが現状です。そんな自分が情けなくなり、患者さんに申し

訳ない気持ちになります。責任の重い仕事の中で失敗することも多く、自分の注意力のなさ、要領の悪さに落ち込むこともしばしばあります。そして覚えるべき業務、疾患、技術が予想を遙かに越え、どこから手をつけていいのかわからなくなり、これから私は看護婦としてやっていけるのかと悩んだ日々もあります。そんな不安な毎日の中で、患者さんの「頑張ってる」の声に励まされたり、先輩スタッフの方々の親身な御指導に支えられ、看護について改めて学んでいる自分がいます。

患者さんに、良い看護を提供するためには、まず患者さん自身を知り、疾患、治療を含め全体像を把握していくことが必要であると思います。又、私に欠けているものですが「気づき」も大切であると、患者さんと接する中で日々実感しています。小さな変化も見逃がすことのない観察力で、看護を展開し実践している先輩方の姿をみて、私も早くこのような技術を身に付けたい気持ちで、一杯になります。そのためには、自分自身を成長させ、一年目のうちから多くの経験を積み重ね看護技術を吸収し自分の財産にしていこうと思っています。

すぐ自己嫌悪に落ち自信をなくしてしまう私ですが、前向きに考えるよう意識して、笑顔を忘れず、共感する心を持って、患者さんの心の支えになれる看護婦になりたいと思っています。



看護婦として働き始めて

7階東NS

大瀧 朋 子



私が看護婦として働き始め二か月が過ぎようとしています。この二か月は、あつと言つ間に過ぎた感じですが、憧れていた看護の仕事にすることができたのに緊張と不安から実感がわかずにいました。今は、まず病棟の流れを知り様々な業務内容を覚えていくのに精一杯です。その中でも患者さんとの関わりは日々違うものであり毎日が緊張と学びの連続です。私は、消化器内科の看護を学びたいと思い、七階東ナースステーションで働くことを希望しました。

病棟には、消化器疾患の患者の他に血液疾患の患者も多く入院しています。学生の頃興味はありましたが、見たこともありませんでした。病棟紹介の時、超大量化学療法を行いクリンルームでの隔離の中頑張っている患者さんを見て緊張はしましたが、しっかり勉強

していかねければと気持ちも新たにになりました。しかし、その気持ちと行動が一致しません。実際に看護婦として働くようになって、学生実習とは大きな違いがあることにとまどっています。学生の頃はひとりの患者を受け持ち、時間をかけて看護の方向性を考え関わっていくことが出来ました。働き始めた今、看護業務の多さと責任から頭がパニックになってしまふこともあります。特に夜勤では、決められた事をするにも要領が悪く時間ばかりかかります。患者さんの質問にも余裕をもって答えることができません。先輩看護婦さんの指示どおりにしか動けない自分がいます。今はまだ業務を覚えるのに精一杯ですが、病棟でどのような看護を行っているのか少しづつ見えてきました。それは、治療を終えて社会復帰していく患者さんの退院時指導の重要性や病名告知のサポートやターミナルケアの難しさを日々のカンファレンスをおして知ることが出来ました。糖尿病や炎症性腸疾患の患者さんの食事や生活指導等、退院後も困らないよ

うに日常生活を送ることが出来る指導について学習をしなければならぬと思います。家族への援助も看護婦にとって重要な役割であることを認識しました。まだまだ日常の業務では反省することも多く責任の重い看護婦という事に自信がなくなることもあります。しかし、患者さんの笑顔と「看護婦さんありがとう」という言葉に勇気が湧いてきます。また何気ない先輩看護婦さんの励ましにも涙が出るほど嬉しい気持ちになります。こうして皆に守られていることを実感しながら日々働いています。初めての受け持ち患者も持ち、これからは疾患を理解し自分の看護に自信が持てるようによい関わりをしていきたいと思っています。看護は、コミュニケーションから始まります。なんでも相談してもらえ看護婦になれるよう笑顔は失わないようにしていきたいと思えます。親元から離れ今は寮生活をしています。自分自身の自立も初めての経験です。これからは、仕事とともに旭川での生活も有意義なものにしたいと夢がふくらんでいます。



私とIXYとの関係

放射線部 柏葉綾子



今年の四月、私は札幌のヨドバシカメラで、CANONのIXYというカメラを買った。テレホンカードくらいの大きさで、重さも軽くて、見た感じとてもかわいいかメラです。最近では、IXYの新しい型もできてきているけれど、私はやっぱり元祖のIXYが一番だと思ふ。

最近の女子高校生は、カメラをいつも持ち歩くことが多いようですが、実は私も毎日IXYをカバンの中に忍ばせています。病院に勤務しに来る時はもちろん、家の近くにあるセブンイレブンへ行く時にも必ず持って行きます。カメラを持って行ったからといって、何かを写真に撮るといふわけでもないけれど、一緒に写真を撮りたい人と会ったり、真を撮りたい人と会ったり、物がある時に、カメラがないことが許せないのです。家から出る時には、IXYを

持って出かけるようにしているのです。

今年の三月まで、私は北大の医療技術短大へ通っていたので、学生のころは、時間があると、写真の好きな友達と一緒に、北大構内のいろんな場所へ行ったり、写真撮っていました。大通公園に行ったり、藻岩山へ登ってみたり、石狩の方の海へ行ったりして写真を撮ったりもしました。

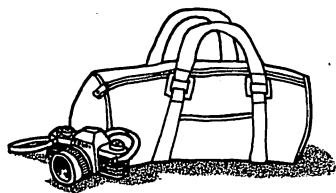
IXYは、二倍ズームまでしかきかないので、山や海へ行った時は、少しもの足りなさを感じたこともあったけれど、IXYのかわいらしさの魅力が大きいのではなかつたです。こんなふうにして、私は学生生活最後の一年間をIXYと共に過ごしてきたわけです。

旭川で暮らすようになって、私が思わず写真に撮ってみたいと感じたものは、大雪連峰です。生まれてから今まで、旭川は私の中で、単なる実家から札幌へ行く時の通過点でしかなかったのです。大雪連峰が見えるなんて、考えもしなかつたです。

四月二十九日、とても天気が良い日でした。私はIXYを片手に大雪連峰を目指しました。三十分も歩けば、けっこう良いスポットとがありました。その時は、今よりも残雪があったので、とても奇麗で、本当に感動してしまいました。こんなに感動したのは久しぶりで、5年に1回あるかないかでしょう。

この日、初めて私は、やっぱりIXYの二倍ズームだけではダメだと、本気で考えてしまいました。IXYでは、この感動がきちんと取めきれないような気がしたからです。でも、IXYは私のカバンの中に今でも毎日入っています。

こんなカバンを持ちながら、私はここ医大病院へ通っています。ユーモアがあつて魅力的な先輩達に囲まれているから、毎日仕事を教えてもらっています。第一の師匠である鈴木さんをはじめ、先輩達のように、私も早く一人前に仕事ができるように、頑張りたいと思います。



“新世紀”の理学療法室に向けて

理学療法室 福田浩史



みなさんこんにちは。四月一日から附属病院の理学療法室に勤務している福田浩史と申します。理学療法士としては六年目になります。ですから、ふれっしゅぼいすではないかもしれませんが、私には、医大の職員、また国家公務員の一年生として書かせて頂きます。

出身校は札幌医科大学衛生短期大学理学療法学科で、卒業後、市内の医療法人元生会森山病院に五年間勤務していました。森山病院では、主に整形の患者さんを見させてもらっていました。高校時代まで野球を続けていたためか、野球選手の外方も多く、非常に勉強になりました。自分自身でも学生時代から整形外科およびスポーツ整形の分野に興味があり、環境としては非常に良い環境でした。では、何故に退職して医大病院に勤務するようになったのか？それは、時代の流れで、民間で働くよりも公務員が安定しているから。また、土曜日が休みで週休二日制だから。なーんて言うのは冗談で、多少は本音かもしれないが、本当の所は、旭川医科大学医学部附属病院で仕事をしたいからなんです。というのはいくつか理由があります。

それは、①旭川生まれである。②整形の医者を夢見受けたが入れてもらえなかった。③学生の時に臨床実習でお世話になった。④森山病院で以前勤務していた橋内勇先生から医大の話をとくと教えていただいた。⑤前任者の向井康詞先生の後輩である。等どれも本当の理由かわからないような理由ですが、③が一番大きな理由です。自分の臨床指導者が、朝野先生でした。卒業後、医大に就職したいとも考えたのですが、定員の枠がないとの事で、断念したわけです。今回、ひょんなことから勤務させて頂けることになり、本当に喜んでいると同時に、今後の理学療法室を朝野先生といかにして今まで以上に「第3期黄金時代」を作り上げ

ていくかというプレッシャーもあります。というのには、オリエンテーションで驚いたのですが、理学療法室が大学の概要に記載されていませんでした。また、患者さんの中には、旭川医大のリハビリは旭川リハビリテーション病院ですもの、医大の中にリハビリはないよと言う方も実際にいます。ちょっと寂しい話です。現実には、二名で約六十名の患者さんを治療し、学生の実習も指導し、受付・予約も行い、病棟にも行き、電話の応対もして、毎日忙しく動きまわっています。

“新世紀”に向けて、大学病院の特徴である、臨床・研究・教育を朝野先生の指導の下でしっかり行い、何年後には、大学の概要に「リハビリテーション部」として記載されるように、微力ながら努力していきたいと考える今日この頃です。今後ともよろしくお願い致します。また、暇があれば気軽に見学をかねてリハビリに遊びに来て下さい。



栄養管理室に勤務して

医事課 澤田 恭子



四月よりこの病院に採用になり社会人として初めての仕事をいただいて、無我夢中で自分の役割をこなそうと、いままで毎日仕事をしてきました。自分では「仕事をしているんだ。」

と思っていました。この二か月間を振り返ると果たして責任ある仕事を「こなしている」と言えるだけのことをしてきただろうかと思間に残ることが多いように思われます。

ひと月位前までは、同じ大学より来ている同期が一人いるせいなのか、まるで実習に来ているかのように学生気分が抜けず、調理師さんに「栄養士さん」と呼ばれても振り向くこともできなくて、「これはどうしたらいいの。」と言う言葉にも返すことができずに、反対に「どうしたらいいんですか？」と聞き返す始末でした。

それでも最近では栄養士としての自覚も少しは芽生え始めているようで、「栄養士さん」と言われてもすぐに振り向けるようにはなりました。しかし、「これはどうしたらいいの。」という言葉に自信をもって答えることがいまだにできません。はきはきと答えられるようになるのはまだまだ先のようなです。

自分の判断一つで患者さんの食事がおいしくもなり、おいしくなくもなり、さらには患者さんの健康状態までも大きく左右してしまうことを思うと、一つ一つの物事に対しての責任の重さについて臆してしまったり、思わず返事に自信がなくなってしまう。やはり、自信を持って答えられるようになるには、より多くの経験を積まなくてはならないのだと痛感しています。

幸い医科大学の附属病院に勤める事ができて、様々な症例に対応した献立を経験することができ、自分の心掛け次第では、これから栄養士として仕事をしていくには大きくプラスしていくことができる環境に自分があるのだと思いま

シリーズ

看護部

各ナースステーションの紹介⑤

6階東NSの紹介

六階東ナースステーションは、眼科と耳鼻科の混合病棟です。プリクラ好きの若い看護婦に混じってもしっかりとらぬ婦長を中心に見守る看護婦十六名と助手一名が日夜より良い看護を提供するために努力しています。

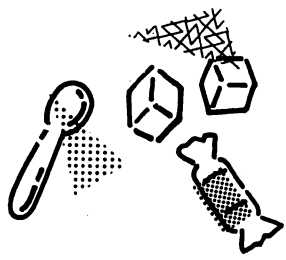
近年、高齢化社会が進み白内障が増え、食生活の向上により糖尿病患者が増加しています。当眼科でも糖尿病性網膜症で視力回復を願う、手術を受けても視力の改善に結びつかないことがあり、手術を受けることが困難な場合があります。その場合視力を精神面で支援し、社会復帰に向け患者のQOLを尊重しながら、セルフケアレベルを高められるよう援助しています。耳鼻科は、喉頭、下咽頭など頭頸部腫瘍の患者が多く、手術や放射線治療が行なわれています。

7階東NSの紹介

七階東ナースステーションは、看護婦十八名、助手二名で構成されています。新卒から四年目までが半数を占め、その若さと中堅者の即戦力の頼もしさ及び熟女パワーで活気にあふれています。疾患は、消化器系、血液系と代謝系に分かれています。炎症性腸疾患や糖尿病では個人のライフスタイルに病気をどのように取り入れて生活するか、指導の重要性と難しさを感じています。消化器系の分野では、内視鏡的治療の発達で

す。このチャンスを生かしていくには学生時代に学んだ知識を忘れない事はもちろんですが、それ以上に医療の現場でしか学ぶべきでない知識とそれを積極的に身に付けていく行動力もこれから養っていくことが大切であると思います。今こんな頼りなげな私が仕事をつまづきながらも少しでもしていくことができるのは室長をはじめとした他の栄養士の方々や調理員の皆さん、事務の方々を私を優しくフォローし、見守ってくれているからであると毎日感じています。常にこの感謝の気持ちを感じることをこれからも忘れずに、栄養士としてだけでなく社会人としても成長していきたいと思えます。

近い将来に「お仕事は何をしていくのですか？」と尋ねられた時に胸を張って「栄養士をしています。」と答えられるようになる日を夢見て努力していこうと思っています。



人間の基本的欲求である『食べる』『話す』の機能障害をもち、更に『顔貌の変化』という大きな問題を抱えています。又、転移、再発などで入院を繰り返して終末期を迎える患者も多く、不安や悲嘆のプロセス

早期癌の摘出や手術適応のない症例にも、侵襲が少なく施行することができQOLも向上しています。血液疾患患者が増え超大量化学療法にともなう末梢血幹細胞移植も頻繁に行なわれています。化学療法の副作用の緩和や隔離での安楽の確保、質的環境を整えること等が必要とされ症例を重ね学習してきました。無菌室入室中の看護は、特に心理的变化を察知した精神的援助が必要とされます。プライマリナースを中心として医師との合同カンファレンスを行いながら患者をサポートしています。悪性腫瘍の患者には、告知にむけての患者、家族のかかわりに苦慮しています。その他術前の指導等看護の役割も多岐にわたっています。学ぶことも多い毎日ですが、壁にぶつかるとも少しはあります。そんな時は、カンファレンスで納得するまで話し合いが行なわれます。スタッフの年齢差に応じた意見が出てとても参考になります。再入院を繰り返す患者も多く情報の統一化やこまやかな配慮も求められます。患者とともに考えられる看護を目指して頑張っています。

(副婦長 川合、竹中、畑中)

【薬剤部】 副作用情報 (32)

トログリタゾン による肝障害

トログリタゾン（ノスカール錠）は、インスリン抵抗性を改善するという新しいタイプの糖尿病治療薬として、九七年三月に発売され、採用になっていきます（旭川医大病院ニュース第六十一号）。その新しい作用機序から、臨床での効果が期待され、インスリン非依存型糖尿病に広く用いられてきました。国内では半年間で約十五万人が投与されたと推定されています。

しかし、米国および国内においてトログリタゾンによる死亡例を含む重篤な肝障害例が報告されるようになり、医薬品等安全性情報などによると、九七年十二月までに国内において、肝障害例七十四例（うち死亡例四例）が報告されています。

そこで、厚生省は、昨年十二月に緊急安全性情報を出し注意を喚起しました。それによると、「トログリタゾン使用に際しては、少なくとも毎月一回肝機能を検査し、その異常値、黄疸が認められた場合には投与

を中止し、適切な処置を講ずること。また、あらかじめ肝機能障害が起こることがあることを患者に伝え、悪心・嘔吐、全身倦怠感、食欲不振、黄色尿等が出現した際には服用を中止し、直ちに受診するよう患者に注意を行うこと。」となっています。添付文書ではこの警告に加えて、「肝障害の患者は投与禁忌」と改定になっていきます。

本剤による肝障害三十五例をまとめた蔵本らの報告によると、その平均年齢は五八・四歳で、GPT上昇は使用開始後二〜五カ月に多く認められています。GPTの上昇様式から肝機能障害は徐々に進行しており、投与中止時のGPT値が五〇〇単位/L以上を示したのは六十一％でした。GPT値は中止後比較的速やかに下降するが、一〜二週間是不変または軽度上昇を示す例があります。しかし、四週以内にはほとんどの例で中止時の1/2以下に低下していません。総ビリルビンやALP、rGTPの検査値から、臨床分類では胆汁うっ滞型ではなく、肝細胞障害型であり、一部混合型でした。また、死亡例のうち3例は投与中止時に重篤な肝障害となっており、それまで肝機能検査が

行われていませんでした。残りの一例では、異常値検出後五週間服薬が継続されていた、と報告されています。薬物性肝障害は、その発症機序から、中毒性と薬物アレルギー性に分類されます。アレルギー性肝障害の方が頻度が高く、患者個々の体質に依存して生じることから、予測が困難であります。

本剤による肝障害の発症機序はまだ明らかにされていません。しかし、その肝機能障害の臨床経過からみてGOT、GPT値が百を超えた場合、投与を中止することにより、重篤な肝障害を防止することができるとの見解もあります。このことから対策としては、緊急安全性情報にある「少なくとも月一回の定期的な肝機能検査を行う」ことが必要です。

トログリタゾンによる重篤な肝障害のように、革新的な新薬の場合にはそれまで発見し得なかった副作用が市販後に報告されること少なくありません。また、本剤の薬理作用にはまだ解明すべき点もあります。従って、本剤の使用に際しては、危険性および有益性を正しく判断することが重要と思われれます。
(薬品情報室長 千葉 薫)

待ち時間

私の所に今でも二十三年前に米国留学していた頃の病院の広報誌が送付されてきます。一時期でも病院勤務していた人を大事に考えようという病院の姿勢が感じられて嬉しく思います。その中の一つのMayo Clinicの広報誌「While you wait」という病院における患者の待ち時間に対する病院の考え方に関する興味ある記事がありましたので紹介します。Mayo Clinicでは医師から秘書まですべての職員からなる「Wait Watchers」と称する組織があり常に患者のあらゆる待ち時間をチェックしています。それは病院における待ち時間は一部署の問題ではなく、種々の部署それぞれでの待ち時間が相互に作用し合って待ち時間を非常に長いものにしていくのであり、この問題は病院全体で考えていかなければならないからであり、そしてその解決には病院側の努力は勿論のこと、患者の協力も重要であると述べています。例えば待ち時間に對する患者の不満は常に投書してもらうこと、患者が外来にきたことははっきりと担当者に告げさせること、医者への質問の要点をあらかじめ書かせておくこと、待ち時間が長いと感じたならば担当者に正確な待ち時間の確認を行わせることなどの患者教育が重要であると述べています。また正確な待ち時間が解りさえすれば、患者はそれほど待たされたという不満はいだかないものであり、その為にMayo Clinicの外来では各診察室の前に種々の色のライトを付けて、その患者の診察順番が何番目で、待ち時間があと何分（何時間）なのかを患者が見て解る様にしていきます。また待ち時間に患者は病院内のビデオセンターで病院紹介ビデオをみたり病院内の図書館で時間を過ごしたり、スナックや食事をとったりすることなどが出来ます。これらの中でも実現可能だと思えます。待ち時間が長いことより待たされたと感じる時間が長いことが患者のストレスとなるのであり、いつ診察してもらえないか解らないで過ごす三十分より、はっきりと時間が解っていて待たされる二時間の方が患者にとっては楽だと思われれます。将来の病院の患者サービスにおいて示唆に富んだ記事であり将来何かの参考になると思われたので紹介しました。

た。
(編集委員長 松野丈夫)
平成十年度
『病院ニュース』
編集委員

- 委員長 松野教授 (整形外科)
 - 委員 沖助教 (小児科)
 - 委員 長谷部講師 (第一内科)
 - 委員 松田講師 (歯科口腔外科)
 - 委員 信岡技師長 (検査部)
 - 委員 千葉薬品情報室長 (薬剤部)
 - 委員 佐藤副看護部長 (看護部)
 - 委員 川原課長補佐 (庶務課)
 - 委員 庫田課長補佐 (医事課)
- 院内での問題点、種々の行事、要望事項及び情報交換等、病院ニュースに掲載する原稿を募集しておりますのでご協力願います。
なお、病院ニュース発行の庶務は庶務課調査係（内線2135）が行っておりますので原稿用紙の請求・アドバイス等もあわせてお寄せください。

